

ディープな町を歩く

東武伊勢崎線太田駅の南口エリアには、北関東一と言われる夜の街（歓楽街）が広がっています。太田市南一番街は、市が東武鉄道太田駅の南側の田畑を開発して市街化する為に行われた区画整理事業に、太田宿をルーツとする市内随一の商店街だった「本町」の店主などが参画して建設した商店街として昭和45（1970）年に誕生しました。商店街として賑わいをみせた南一番街ですが昭和52年頃になると、太田駅前大型商業施設の登場とともに客足が徐々に遠のき、店舗の閉店が相次ぎます。そこでシャッター街と化した南一番街に進出したのが飲食店やスナックといった夜に華やぐ大人の娯楽文化でした。

現在でもこの地は、昭和レトロな雰囲気を残し派手な看板が立ち並びます。ある人にとっては懐かしく、ある人にとっては新しい、そんな味わい深い街なのです。



城下町に根付いたスナック文化

夜の街をひっそりと照らし続けるスナックは、日本に暮らす人々に長く愛されてきた小さな飲み屋さんで、人と人が心を通わせる憩いの場です。

北関東屈指の工業地域として栄えてきた太田市は、群馬県内でも特にスナック文化が深く根付いた地域となりました。その背景には、日々労働に励む人々が今日の疲れを癒し、明日への活力を求め街へと繰り出していった、一人ひとりの営みがあったといえます。今なおスナック文化は色濃く残っており、今夜もそれぞれの事情を抱えた多種多様な人々が集まります。SNSが一般的になった現代だからこそ、人が人とリアルに繋がるスナックは再注目され、魅力的なのではないでしょうか。

《GUEST PROFILE》

全日本スナック連盟会長 玉袋筋太郎

1987年に「浅草キッド」として水道橋博士とコンビを結成。以来、テレビ、ラジオなどのメディアや著書の執筆など幅広く活躍中。一般社団法人「全日本スナック連盟」会長を務めている。



YUMMY'S TOPIC!



ダニエルハウス

ダニエルハウスはブルワリーとレストランが一体となった珍しいレストランです。出来立ての地ビールと地元の素材を活かしたグリル料理、石窯ピッツァは絶品！